〈社会〉

# 主体的に社会に関わろうとする態度を養う授業づくり

## ――パフォーマンス課題と単元振り返りシートの工夫を通して（第３学年）――

嘉手納町立嘉手納中学校教諭　宮　城　一　徹

### Ⅰ テーマ設定の理由

現代社会は、グローバル化の進展により、ヒト・モノ・カネがこれまでにない程、国境を越えて移動している。また、少子高齢化に伴う労働力不足、社会保障制度への影響など予測が困難な時代を迎えている。このような中、『中学校学習指導要領（平成 29 年告示)』(以下『指導要領』）において公民的分野の目標では「現代の社会的事象について，現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う」と示された。社会の縮図である地域の課題を取り上げる価値が大きいことを示唆している。

現勤務校が所在する嘉手納町教育委員会では、「嘉手納を愛する人」を育てることを教育目標に掲げている。そこには、本町の人口減少が背景にある。生徒へのアンケート調査（2022）においても、約７割の生徒が「将来、嘉手納町に住まない」と回答し、その理由として、「住む土地が狭い」「働く場所が少ない」といった課題を挙げている。一方で、生徒の多くは、「大人が解決すること」と、これらの地域の課題を自分事として捉えることができていない。このことから、地域社会の担い手としてよりよい将来を展望して地域の課題について解決を考え、行動していこうという気概の乏しさがうかがえる。つまり、主体的に社会に関わろうとする意欲が弱いと言える。

これまでの実践において、生徒が主体的に学習に参加し、他者と協働し合いながら合意形成を図る授業に取り組んできた。その結果、地域に対する関心の高まりがみられたが、生徒の単元振り返りシートを読むと、単元を貫く問いや毎時間の問いに対する生徒の考えは、感想や学習内容のまとめに留まっていた。また、他者の意見を鵜呑みにする傾向があり、自分の意見を再構築して、まとめることができていないといった課題がみられた。

その要因として、単元を貫く問いが「まとめよう」というだけになっており、「どのように」「あなたなら～」などの課題解決に向けて思考・判断し主体的に取り組めるような「問い」になっていなかった。また、単元振り返りシートが、思考・判断・表現する力を段階的に身に付けるフォームとして機能していなかったことも挙げられる。「今日の学習のポイント」という枠を設けているだけあり、結果、生徒の中には毎時間の問いに対する自分の考えではなく、キーワードの羅列にとどまっていた。そのため、生徒は課題を自分事化しながら、思考・判断できず、「主体的に社会に関わろうとする態度」を養うことができずにいた。

以上を踏まえ本研究では、公民的分野の「私たちと現代社会」の単元づくりに取り組む。本単元は少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について考察し、社会に参画する意識を高めることができる単元である。そこで、単元振り返りシートのフォームの改良に取り組み、思考・判断・表現する力の育成を図る。また、主体的に社会に関わろうとするためのパフォーマンス課題を単元を貫く問いとして設定する。具体的には、「嘉手納人口倍増プラン！！町役場職員になって目玉プランをつくってみよう。」という地域の課題解決に取り組むパフォーマンス課題を設定する。そうすることで、「主体的に社会に関わろうとする態度」を養うことができるであろうと考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

公民的分野「私たちと現代社会」の学習において、パフォーマンス課題を設定し単元振り返りシートを工夫することで、「主体的に社会に関わろうとする態度」を養うことができるであろう。

## Ⅱ 研究内容

### 1 「主体的に社会に関わろうとする態度」について

> 現代の社会的事象について，現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

**図１　公民的分野の目標の(3)**

(1)「主体的に社会に関わろうとする態度」とは

本研究における「主体的に社会に関わろうとする態度を養う」とは、『指導要領』社会科公民的分野の目標に示されている育成を目指す資質・能力「学びに向かう力，人間性等」の一つである（図１下線部）。この点に関して『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説社会編』（以下『解説社会編』）では、地理的分野及び歴史的分野においても共通して課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うことを目指しており、公民的分野においては、その基礎の上に育成を目指すものであると示されている。また、「求められる役割と責任などについて多面的・多角的に考察したり、深い理解につなげたりして、社会の発展に寄与する態度」とも示されている。これらを踏まえ、本研究においては「私たちが生きる現代社会の特色について、現代社会に見られる課題を主体的に追究、解決しようとし社会の発展に寄与する姿」を「主体的に社会に関わろうとする態度」と捉える。そして、地理と歴史で学習したことも生かしながら単元全体をデザインし研究を進めていく。

(2) 本研究における単元の評価規準と主な評価材料について

本研究では、大単元「私たちと現代社会」において、「主体的に社会に関わろうとする態度」を育んでいく。具体的には、８時間を設定し、情報化、グローバル化、少子高齢化について学習を展開する。本単元全体を通して単元振り返りシートで「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」を育み、パフォーマンス課題にも取り組ませることで、「主体的に社会に関わろうとする態度」を養っていく。そのため、表１の通り評価規準を設定し見取る生徒の姿とする。

主な評価材料について、「知識・技能」はペーパーテストとする。また、「思考・判断・表現」については、単元振り返りシートを主な評価の機会とする。「主体的に学習に取り組む態度」については、単元振り返りシートを踏まえて、パフォーマンス課題「嘉手納人口倍増プラン！！町役場職員になって目玉プランをつくってみよう。」に取り組ませて、その成果物等により見取る。加えて、「指導に生かす評価」も単元計画に位置付け、評価場面を明確にすることで「主体的に社会に関わろうとする態度」を育み、見取っていくこととする。

**表１　本研究における単元の評価規準と主な評価材料について**

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| 現代日本の特色として情報化、グローバル化、少子高齢化などについて理解している。 | 位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、情報化、グローバル化、少子高齢化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現している。 | 私たちが生きる現代社会の特色について、現代社会に見られる課題を主体的に追究、解決しようとし社会の発展に寄与しようとしている。 |
| 【主な評価材料】<br>ペーパーテスト | 【主な評価材料】<br>単元振り返りシート | 【主な評価材料】<br>単元振り返りシート・目玉プラン |

### 2 パフォーマンス課題について

パフォーマンス課題について、西岡加名恵（2018）は「リアルな文脈の中で、様々な知識やスキルを応用・総合しつつ何らかの実践を行うことを求める課題」であると述べている。さらに、パフォーマンス課題を取り入れることで、「永続的理解」が深まると指摘している。この「永続的理解」の「理解」とは、例えば、自分の生活で棚が壊れた場面において、道具の知識を生かし、実際に棚を作ることで、次に机などを作る場面で応用できることである。つまり、パフォーマンス課題は、自分事となる立場や具体的な生活場面に置き換えた問いであり、主体的な探究を触発するものである。よって、パフォーマンス課題を設定することにより、様々な生活場面で役立ち、社会人になっても状況を判断し、「主体的に社会に関わろうとする態度」を養うことができると考える。そこで、本研究では、地域社会を題材としたパフォーマンス課題を単元を貫く問いとして設定する。具体的には、「嘉手納人口倍増プラン！！町役場職員になって目玉プランをつくってみ

よう。」（以下、目玉プラン）と設定し、学習を進めていく。単元の導入時と単元の途中にアイデアを持つ機会を設定する。また、単元後半では「単元振り返りシート」に明示した思考ツールを用いてアイデアを再構築させる。そして、これらを材料にスライド作成に取り組ませ実際に発表し提示する。また、発表後に改めて自分の考えとその理由を単元振り返りシートに記入させる。このように、単元全体を通してパフォーマンス課題に取り組ませることで、将来を見据えながら、「主体的に社会に関わろうとする態度」を養うことができると考える。

## ３　単元振り返りシートの工夫について

単元振り返りシートとは、１枚で単元全体の振り返りを記述させるシートである。学習の履歴を記録することから「１枚ポートフォリオ」とも呼ばれている。このシートについて堀哲夫（2002）は「学習者が１枚の用紙の中に学習前・中・後の履歴として記録し、その全体を学習者自身が自己評価する方法」と述べている。これまでも、図２のような単元振り返りシートを用いてきた。単元課題と毎時の学習課題をめあてとして提示し、「今日の学習のポイント」を記述させるフォームであった。よって、生徒の中には、キーワードの羅列のみであったり、社会的事象に対する感想に留まるなど、思考の高まりが弱い部分が見られた。よって、本研究においては、「Ｒ80」や思考ツールを組み込んだ単元振り返りシートを作成する。

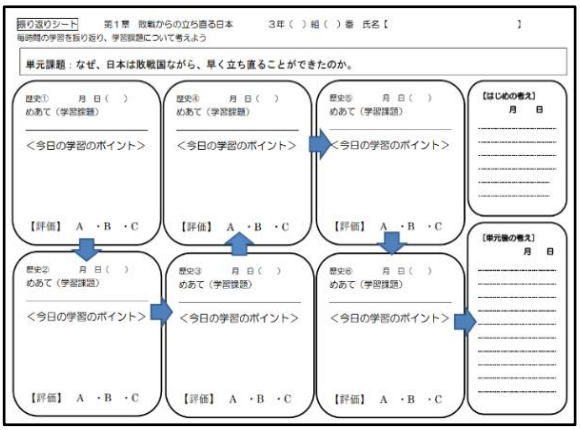



**図２　これまでの単元振り返りシート**

### (1)「Ｒ80」について

「Ｒ80」の「Ｒ」はリフレクション（reflection）とリストラクチャー（restructure）の頭文字のＲで、80 とは、80 字以内で書いてまとめるという意味である。授業後のまとめの際にリフレクション（振り返り）として、自分の考えをリストラクチャー（再構築）して 80 字以内で書きだすことである。本研究では、『沖縄県立総合教育センター平成 31 年度調査報告書』で示された「世界史×SDGｓ記入シート」（図３）を援用し、「Ｒ80」を用いる。単元振り返りシートに「Ｒ80」の記述欄を設け、毎時の学習課題に対する自分の考えを記入させる。単元を通して、現代社会の特色が自分たちの生活や地域へ与える影響について、資料を根拠に 80 文字でアウトプットさせる。そうすることで、毎時の学習課題を自分事として捉えさせ、「主体的に社会に関わろうとする態度」を養うことにつなげていく。




**図３　世界史×SDGｓシート**

### (2) 思考ツールについて

七里広志（2022）は思考ツールについて、「生徒の思考を可視化しアウトプットするツール（道具）」と述べている。思考ツールを活用することで、生徒は、それまで得た情報や自分の考えを分類・比較・関連付けて目に見える形で構造化することができる。

本研究では、パフォーマンス課題に取り組む前に授業で得た多くの情報や自分自身が思考した内容をまとめる手段として３つの思考ツールを用いる（図４）。ベン図は分類・整理に、キャンディ・チャートは根拠づけて論理的にまとめるために、クラゲ・チャートはグループで考えた意見の集約に用いる。また、思考ツールによる可視化された生徒の思考を教師が見取ることで形成的評価の材料として指導改善にもつなげていく。

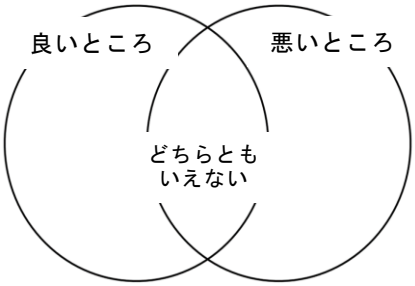
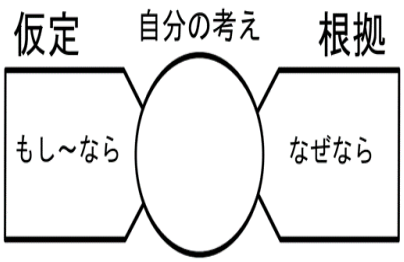
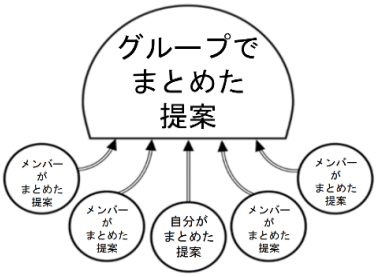
| 名称 | 【ベン図】 | 【キャンディ・チャート】 | 【クラゲ・チャート】 |
|---|---|---|---|
| ツール図 |  |  |  |
| 効果 | 嘉手納町の分類、整理しながら複数の要素を比較する。 | 仮定に対し根拠づけて論理的に自分の考えをまとめる。 | グループメンバーの各意見を関係づけて、クラゲの頭の部分に集約する。 |

図４　本研究で使用する思考ツール

(3)本単元における振り返りシートについて

本単元においては「R80」と思考ツールの利点を踏まえ、図５のように両面を用いたフォームの改良に取り組む。以下、図５のポイントと期待できる効果について、表２で説明する。

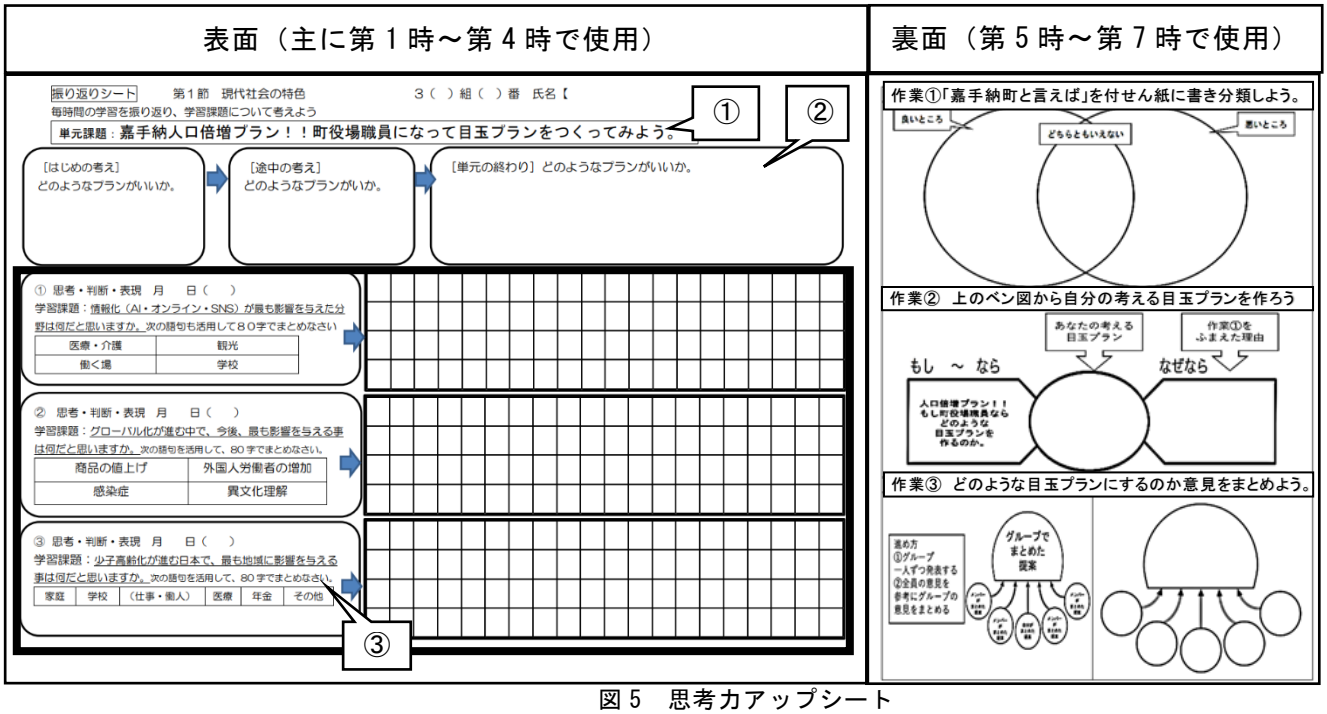



図５　思考力アップシート

表２　思考力アップシートの活用のポイントと期待できる効果

| | ポイント | | 期待できる効果 |
|---|---|---|---|
| 表面 | 図５① | パフォーマンス課題を設定し、単元全体を貫く問いとして位置づける。 | 本単元に対して見通しを持って取り組むことができる。 |
| | 図５② | パフォーマンス課題に対して、単元の導入時・中間・終わりに自分の考えを書く。 | パフォーマンス課題に対して段階的に考えを構築しながら、その変容を可視化することができる。 |
| | 図５③ | キーワードを根拠に本時を振り返り、「R80」を用いて自分の考えを再構築する。 | 自らの学びを実感しながら、パフォーマンス課題に対する自分自身の考えに迫ることができる。 |
| 裏面 | 作業手順と使用する【思考ツール】 | | |
| | 作業① | 【ベン図】「嘉手納町と言えば」を書いて付箋紙に書き、良いところと悪いところに分類しよう。 | |
| | 作業② | 【キャンディ・チャート】「嘉手納町の良いところ」をふまえて自分の考える目玉プランを作ろう。 | |
| | 作業③ | 【クラゲ・チャート】どのような目玉プランにするのかグループの意見をまとめよう。 | |

このように両面を用いて「R80」や思考ツールを組み込んだ振り返りを行わせる。また、この単元振り返りシートを「思考力アップシート」と名付け、生徒が高揚感をもって取り組めるようにする。何より単元最後のパフォーマンス課題に取り組む際の材料となることを期待する。

## Ⅲ　指導の実際

## 1　大単元名「私たちと現代社会」

## 2　単元の目標

| 知識及び技能 | 思考力，判断力，表現力等 | 学びに向かう力，人間性等 |
|---|---|---|
| 現代日本の特色として情報化、グローバル化、少子高齢化などについて理解する。 | 位置や空間的な広がり､推移や変化などに着目して、情報化、グローバル化、少子高齢化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現する。 | 私たちが生きる現代社会の特色について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。 |

## 3　単元の評価規準（表１参照）

## 4　単元を貫く問い（パフォーマンス課題）

「嘉手納人口倍増プラン！！町役場職員になって目玉プランをつくってみよう。」

## 5　単元計画（全８時間）（〇…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

| 時間 | 【学習項目】「ねらい」（毎時の問い） | 〇主な学習活動 AS＝思考力アップシートと記述する | □パフォーマンス課題との関連 | 評価の観点 知 | 思 | 態 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 「現代社会の特色」に関連させ「パフォーマンス課題」を確認する。<br>「40 年前と今の社会を比べて、今の社会は何が進んでいるだろうか。」 | 〇教科書のイラストから、現代社会の特色を読み取り、単元を貫く問い（パフォーマンス課題）を確認する。<br>〇AS にパフォーマンス課題に対するはじめの自分の考えを記入する。 | □40 年前と今の社会の比較したイラスト（教科書）から現代社会の特色を読み取り、現在の嘉手納町と結びつける。 | ○ | | |
| | パフォーマンス課題　嘉手納人口倍増プラン！！町役場職員になって目玉プランをつくってみよう。 | | | | | |
| 2 | 【情報化ついて】<br>「あなたが就きたい仕事は？AI の登場によってなくなる職業は？残る職業は？」 | 〇AI（人工知能）の急速な進化による産業構造の変化について調べて、まとめて自分の将来と結びつける。<br>〇AS の「情報化」をキーワードに「R80」で振り返る。 | □メディアセンター設立や目的から嘉手納町の情報化の進展にも触れる。 | ○ | ○ | |
| 3 | 【グローバル化ついて】<br>「値上げする商品が増えたのは、なぜだろうか。」 | 〇値上げした商品から、その原因を追究しグローバル化の影響について理解する。<br>〇AS の「グローバル化」をキーワードに「R80」で振り返る。 | □外語塾などの活動を調べ嘉手納町のグローバル化の取り組みにも触れる。 | ○ | ○ | |
| 4 | 【少子高齢化ついて】<br>「将来、日本と嘉手納町は、人口は増える？減る？その後、どうなるの。」 | 〇日本の人口構造の変化と嘉手納町の人口構造の変化を比べて、その影響を予想する。<br>〇AS の「少子高齢化」をキーワードに「R80」で振り返る。 | □給食費･15 歳までの医療費の無料化など、人口増加のための子育て事業について触れる。<br>□シートに単元途中の考えを記入させる。 | ○ | ○ | |
| 5 | 【パフォーマンス課題への取り組み①】<br>「現代社会の特色とつなげて、嘉手納町の課題って何だろうか。」 | 〇嘉手納町の課題を保護者アンケートや嘉手納町の広報誌・基本計画から自分の考えを思考ツール(ベン図･キャンディ・チャート）にまとめる。 | □保護者や地域から集めた情報を整理し地域の課題を発見する。 | | ● | |
| 6 | 【パフォーマンス課題への取り組み②】<br>「目玉プランについて、話し合ってみよう。」 | 〇嘉手納町の課題に向けて、思考ツール（クラゲチャート）を使って、グループの意見をまとめる。 | □嘉手納町の課題について収集した情報を基に話し合う。 | | ● | |
| 7 | 【パフォーマンス課題への取り組み③】<br>「現職の町職員に、提案するための目玉プランのプレゼン資料をつくろう。」 | 〇嘉手納町の課題を解決のために、ＩＣＴを活用してプレゼン資料を作成する。 | □パフォーマンス課題の目玉プランに取り組む。 | | ● | |
| 8 | 「嘉手納町職員に、自分たちの考えた目玉プランを提案しよう。」 | 〇パフォーマンス課題についてタブレット端末を使って嘉手納町職員に提案する。 | □単元を終えて「思考力アップシート」に単元後の振り返りを書く。 | | | ○ |

## 6　本時の学習指導（８/８時間）

| | | |
|---|---|---|
| (1) 本時の問い | | 「嘉手納町職員に、自分たちの考えた目玉プランを提案しよう。」 |
| (2) 本時の目標 | | 「現代社会の特色と嘉手納町の課題をふまえ、目玉プランを提案する。」 |
| (3)過程 | 導入<br>(５分) | １．これまでの単元の学習事項を振り返る（現代社会の特色と嘉手納町の課題について確認する。）<br>２．今日の問いを確認しよう！（「嘉手納町職員に、自分たちの考えた目玉プランを提案しよう。」） |
| | 展開<br>(30 分) | ３．パフォーマンス課題についてタブレット端末を使って嘉手納町職員に提案する。<br>・各班３分以内でスライド３枚程度の発表を行う。<br>・全グループ発表後、町職員からの好評を受け、町職員への質問を行う。 |
| | まとめ<br>(15 分) | ４．単元の学習をふり返る<br>・学習後の記述欄を記入し、学習前と途中をふまえて、改めて目玉プランを記入する。 |
| （４）評価 | 以下の材料より〔主体的に学習に取り組む態度〕の記録に残す評価とする。<br>①スライドより「社会の発展に寄与しようとしている」姿。<br>②AS より「私たちが生きる現代社会の特色について、現代社会に見られる課題を主体的に追究、解決しよう」とする姿。 | |

# Ⅳ 仮説の検証

研究仮説に基づき、パフォーマンス課題を位置付けた単元づくりと単元振り返りシートの工夫を行うことで、「主体的に社会に関わろうとする態度」を養うことができたかについて検証する。検証にあたっては、単元振り返りシート、成果物や授業観察、事前・事後アンケートを基に表１の評価規準に照合しながら考察していく。



図６　単元振り返りシート

## １　単元振り返りシート「Ｒ80」の効果について

本単元は、８時間設定しそのうち、第２～４時の振り返りを「思考力，判断力，表現力等」の記録に残す評価とした。第２時と第３時の振り返りの場面で、問いに対するそれぞれの「Ｒ80」の記述から、その効果を考察する（図６）。生徒ａは第２時では、情報化の影響について、キーワードの中から「学校」を選択し、その理由として「タブレット端末を使った授業が増えた」と、自己の経験のみを根拠としており字数も足りず考察が弱かった。他の生徒にも同様の姿が複数見られた。そこで、記述後に、生徒同士で互いに回し読みによる相互評価を取り入れた。すると、第３時ではグローバル化の影響について、キーワードの中から「労働者」を選び、その理由として「外国人労働者がいることで、観光客の対応もしやすくなるし、労働者が増えることで、より仕事（過重労働・ワンオペがなくなり）が安定してできるから」と複数の根拠を挙げ記述していた（図７）。この記述からは、外国人労働者の増加の変化に着目して、グローバル化が現在の経済に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現していることが読み取れる。また、前時に可視化させたことで、「Ｒ80」のコツを理解し 80 文字でまとめる力にも高まりが見られた。

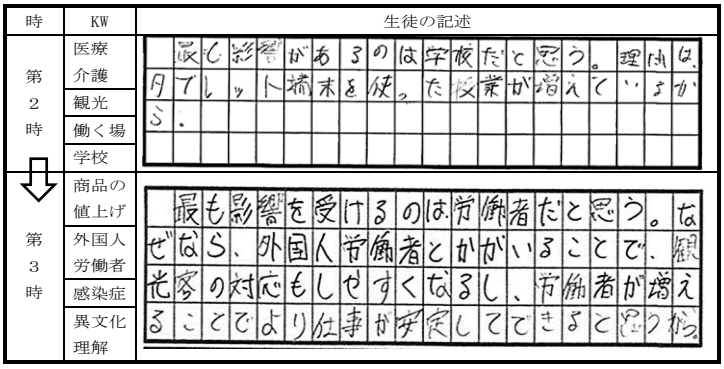



図７　生徒ａの記述の変化

さらに、事前に設定した評価規準（表１）を基にルーブリックを作成し評価した結果は表３の通りとなった。そのうち、Ａ評価となった生徒ｂは、情報化が「観光」に与える影響について言及し、ＳＮＳによる共有が観光地に良い効果が出ている事を記述していた。生徒ｃは、少子高齢化が「仕事」に与える影響について触れ、少子高齢化による労働者の負担増について懸念を記している（表４）。このように、情報化、グローバル化，少子高齢化に関する問いに対して、位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響についてのキーワードを参考に 80 字以内に多面的・多角的に考察し、表現している。さらに、「Ｒ80」に関する事後のアンケートについて 98％の生徒が以前の振り返りシートに比べて「自分の考えをまとめやすかった」と肯定的な回答をしている（図８）。その理由として、「どの程度の長さ

表３　「Ｒ80」の評価結果（n＝33）

| 「Ｒ80」のルーブリック（思考・判断・表現） | | ％ |
|---|---|---|
| A | 現代社会の特色である情報化、グローバル化、少子高齢化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響についてキーワードの中から選択し、その根拠を多面的・多角的に考察し、２文 80 文字で表現している。 | 62 |
| B | 現代社会の特色である情報化、グローバル化、少子高齢化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響についてキーワードの中から選択し、その根拠を２文 80 文字で表現している。 | 32 |
| C | Ｂ以下 | 6 |

表４　「Ｒ80」におけるＡ評価の記述

| 生徒 | 本時の問い | 生徒の記述 |
|---|---|---|
| b | 情報化が最も影響を与えた分野は何か | 観光だと思う。なぜなら、SNS などを通じて観光地の様子やその風景を共有されていて、それを見た人が観光地を訪れたり、観光客も増えたと思うから。 |
| c | 少子高齢化が進む日本で、最も地域に影響を与える事は何か | 仕事だと思う。理由は、子供が減り、高齢者が増えると、その地域で働く人が少なくなり、働く一人ひとりの仕事の負担が多くなり大変になると思うから。 |

の文を書けばよいのかが明確になっているから書きやすい」「キーワードなどがあって自分の考えがまとめやすかった」とあり、キーワードの活用や字数に決まりがあったことで自分の考えをまとめやすく振り返られるようになったことがうかがえる。振り返りの場面で「R80」を取り入れることで、毎時の学習課題が社会に生きる一人としての課題となり、自分事として思考が深まっていたと考える。

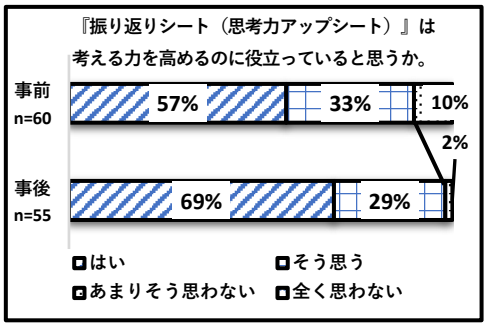


図８　事前・事後アンケート

## ２　パフォーマンス課題の効果について

### (1) 思考ツール活用の効果

本単元では、「嘉手納人口倍増プラン！！町役場職員になって目玉プランをつくってみよう。」というパフォーマンス課題を単元のゴールに設定した。そのゴールに向かうために各授業ごとに現代社会の特色に関連した嘉手納町の取り組みについて、ＩＣＴを活用して調べさせた（図９）。また、保護者を対象に嘉手納町についてアンケートも行った（図 10）。

これらの集めた情報を整理するために「思考ツール」を用い課題解決に向けて、全員が整理、分析することができた。その中から生徒ｄの成果物を参考に検証する。



図９　「現代社会の特色×嘉手納町」を調べる様子

はじめに、集めた情報を思考ツールのベン図を活用して嘉手納町の「良いところ」、「どちらともいえない」「悪いところ」に分類した。そして、情報を整理しながら複数の要素を比較し、どの課題に取り組むのかの焦点化を行った。生徒ｄは保護者アンケートで挙がった「病院が少ない」を課題として挙げた。次に、焦点化した課題をふまえ思考ツールのキャンディ・チャートを活用して、ベン図で示された情報を根拠に、パフォーマンス課題である目玉プランの具体的な内容を考えた。生徒ｄは病院の少なさを根拠に、目玉プランとして「病院や小児科を増やし、医療面での補助を充実させる。」と考えた。そして、嘉手納町の地図も活用することで、地理的条件もふまえながら、より効果的な目玉プランを考察する姿がみられた（図 11）。最後に、思考ツールのクラゲ・チャートを活用して各意見を関係づけて、「親世代に優しい町づくり」というクラゲの頭の部分に集約した目玉プランのテーマを決めることができた（図 12）。

嘉手納町の良いところ・課題を保護者アンケートと資料からつかもう。

| 良いところ | 課題（誰にとっての課題か） | 子どもに将来、住んで欲しいか |
|---|---|---|
| ・子育て支援が充実している。<br>・英検補助・PCの導入<br>・子育てしやすい施設や補助金が整っている。<br>・プールやドームまである。<br>・生活する上で不自由な点が少ない。 | ・人口減少（親世代・移住者）<br>・大きな商業施設がない（親世代）<br>・学力が低い（中学生）<br>・公園が古い（中学生）<br>・駐車場が少ない（親世代） | いいえ<br>・病院や小児科が少ない。<br>・嘉手納町に1つしか中学校や高校がない。<br>・自然が少ない。<br><br>はい<br>・子育てがしやすい。<br>・医療費・給食費の無料化 |

図 10　保護者アンケート（抜粋）



図 11　嘉手納町の地図の活用

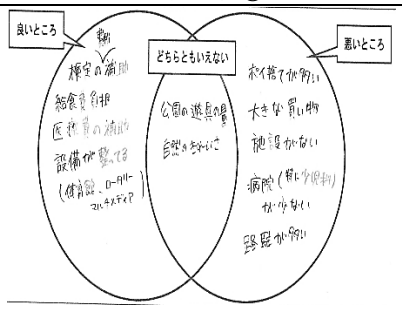
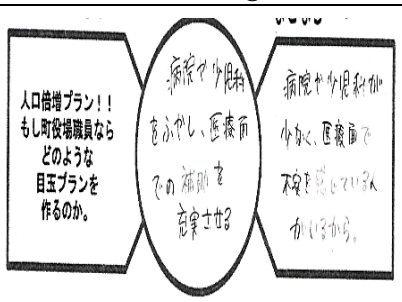
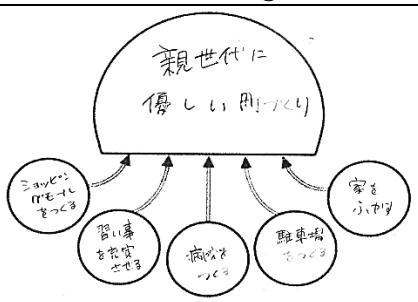
| 名称 | 【ベン図】<br>ステップ① | 【キャンディ・チャート】<br>ステップ② | 【クラゲ・チャート】<br>ステップ③ |
|---|---|---|---|
| ツール図 |  |  |  |
| 効果 | ベン図を通して嘉手納町の特色を分類したことで、子育て世代への補助が手厚いことを比較して理解した。 | 課題に挙がった「病院の少なさ」に着目して目玉プランのアイデアを考えた。 | グループの各々から挙がった意見を関係づけ、子育て世代をターゲットに絞り、グループで提案する内容を集約した。 |

図 12　思考ツールにおける生徒ｄの思考の流れ

事後のアンケートの思考ツールを活用したことで授業（単元）が始まった時の目玉プランと授業（単元）が終わった時の目玉プランに変化はあったか」の設問に肯定的な回答をした生徒が 89%もいた。その理由として、「嘉手納のいい所、課題について最初より深く知り、それを活かしたり解決するにはどうすればいいか思考ツールを使って考えていくうちにプランが変わった。」「始めは町をＰＲすることしか考えていなかったけど、思考ツールで考えを整理したことでもっと施設を充実させたらいいんじゃないかと考えるようになったから。」などを挙げている。このことから思考が深まり目玉プランに変容があったことから、思考ツールを活用することは、収集した情報を整理・分析・集約していく上で有効な手立てであったと言える。

(2) パフォーマンス課題と単元振り返りシートの相乗効果について

本単元で、パフォーマンス課題に取り組み、「Ｒ80」を用い各授業ごとに現代社会の特色をふまえた振り返りを行った。生徒ｅは、パフォーマンス課題の目玉プランに対して保護者アンケートから挙がった「商業施設」を取り上げて、当初「お店を増やして、生活しやすくする。」と記述していた（図 12)。それが、第２時で現代社会の特色である情報化について学習し、「Ｒ80」を用い振り返ったことで「観光」という視点から「観光に行く前にその土地について調べることができるから」と記述している。第４時で改めて、単元途中の考えを問うと生徒ｅは「嘉手納町の良いところや魅力を伝える動画や画像をつくりにＳＮＳにアップする。」と考えを改めている（図 12)。このことは、パフォーマンス課題と「Ｒ80」の振り返りが連動して、思考が高まり目玉プランが再構築され、変容したことがわかる。

| 単元のはじめの目玉プラン ⇨ | 第２時「Ｒ80」の記述（「情報化が最も影響を与えた分野は何か」に対する記述） | ⇨ 単元途中（第４時後）の目玉プラン |
|---|---|---|
| お店を増やし生活しやすくする。 | 最も影響を与えたのは観光だと思う。なぜなら、観光に行く前にその土地について調べたり、人の感想を聞いたりしていて、海外に行くときは翻訳アプリなども使えるから。 | 嘉手納町の良いところや魅力を伝える動画や画像をつくり SNS などにアップする。 |

図 12　単元振り返りシート（「思考力アップシート」）からみる生徒ｅの思考の変容

### ３「主体的に社会に関わろうとする態度」について

(1) 目玉プランに見る「主体的に学習に取り組む態度」

生徒たちはパフォーマンス課題に取り組むにあたり、嘉手納町の課題について保護者へのアンケートを参考にし、人口増のための取り組み事例として町のホームページや広報誌などを参照して目玉プランを作成していった。それを「主体的に学習に取り組む態度」の評価材料とするため、事前に設定した評価規準（表１）を基にルーブリックを作成し、評価した結果は表５の通りとなった。複数の生徒の目玉プランの変容をまとめた表６とともに考察する。

表５　目玉プラン（成果物）の評価結果（n＝33）

| 目玉プランのルーブリック（主体的に学習に取り組む態度） | | 人数 | % |
|---|---|---|---|
| A | 現代社会の特色である情報化、グローバル化、少子高齢化を踏まえながら、嘉手納町の課題や優位性を主体的に追究、解決しようとし社会の発展に寄与しようとしている。 | 24 | 74 |
| B | 嘉手納町の課題や優位性を主体的に追究、解決して社会の発展に寄与しようとしている。 | 8 | 23 |
| C | Ｂ以下 | 1 | 3 |

Ａ評価の生徒は 74%となり、現代社会の特色である情報化、グローバル化、少子高齢化などの社会的背景を踏まえながら、町の課題や優位性を生かした目玉プランとなっていた。また、単元のはじめから途中にかけて試行錯誤しながらも粘り強く取り組んでいることや、単元全体を通して自己調整を図りながら具体的かつ現実的に課題を追究、解決していることも読み取れる。Ｂ評価の生徒は、嘉手納町の施設の充実を生かしてはいるが、生徒自身の要望が強い。Ｃ評価の生徒は、海岸沿いに埋め立てを行い遊園地を作るなど願望型の目玉プランとなっていた。単元途中でより現実的で現代社会の特色を踏まえたプランを目指すということを再認識させる必要があったと考える。しかしながら、97%の生徒から「現代社会に見られる課題を主体的に追究、解決しようとし社会の発展に寄与しようとしている姿」を見取ることができた。

表６　生徒の考えた目玉プラン

| 現代社会の特色 | 単元のはじめ目玉プラン | 途中の目玉プラン | 単元の終わり | | 評価結果 |
|---|---|---|---|---|---|
| 情報化 | デートスポットをつくる | 男女が出会える場所 | 出会い系アプリの開発 | 嘉手納町民限定のマッチングアプリを開発して、出会いからデートプランまでAIが提案。その後、結婚式や出産、子育てまでの嘉手納町がサポートする。 | A |
| グローバル化 | 大型ショッピングモールをつくる | 外国人と交流できる町にする | 英才教育プラン | 保育園からALTによる英会話保育を行う。小学校では、基地内児童との交流と基地内遠足。中学校では基地内ホームステイや職場体験。そして、コミュニケーション能力のある嘉手納町民の基地内就職につなげる。 | A |
| 少子高齢化 | 観光地を増やす | 子供からお年寄りまで住みやすい町にする | 高齢者が働ける保育園 | 子育てを支援し、高齢者に生きがいと健康を与える保育園を作ることで、健康長寿の町をつくる。おばあちゃんが子育ての経験を活かすことで、たくましい子を育てる。また、おじいちゃんが園児の送迎や登下校の安全を見守る。 | A |
| その他 | 遊べる公園をつくる | バッティングセンター | 地域クラブを作る | 町内の施設を活用して、プロ経験者、競技経験者などが運営する地域クラブ（ソフトボール、フィッシング、バスケットボールなど）を作る。 | B |
| | 人が集める娯楽施設 | お化け屋敷 | 遊園地を作る | 嘉手納町に遊園地・水族館を作り、観光客を呼び込む。独自のアトラクションとして空き家でお化け屋敷、比謝川でウォーターバルーンなど。町民は「町民割」で割引。 | C |

さらに、「目玉プラン」の発表場面において、地域の外部人材として町職員に伝える場面を設けた。町職員を説得するために、調査したデータを数値化、またグラフ化したり、自分たちの考えた目玉プランをより効果的にアピールするために工夫していた。このように自分たちの考えた目玉プランを実現して欲しいという「社会の発展に寄与する姿」が見られた（図 13）。また、目玉プランを発表後は、町職員からの感想や現在の嘉手納町の取り組みについて説明を受けた。その中では、生徒が挙げた空き家についての具体的な数字や新しい球場の建設を進めていることや肝心なのは、建設した後の、活用方法が課題であることが示された（図 14）。授業後の生徒ｆの感想の記述では、空き家の数を聞いて「お店を開くなど」の新たなプランを挙げるなど、「いい町にしていきたい」と決意を示している。また、生徒ｇは、自分たちがどう取り組んでいくのかをしっかりと考えていきたい。」と述べて、嘉手納町をよりよくするために今後も関わろうとする態度を示している（表７）。



図 13　生徒の発表の様子

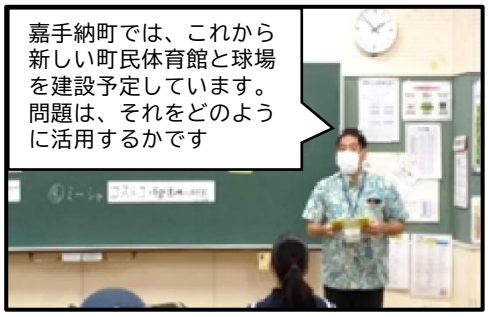


図 14　町職員の話の様子

表７　町職員の話を聞いた生徒の記述

| 生徒 | 記述 |
|---|---|
| ｆ | 空き家が多いと言っていたので、この空き家を活用してお店を開いてみるのもいいと思った。今よりも、もっといい町にしていきたい。 |
| ｇ | 嘉手納町の取り組みを知り、後は自分たちがどう取り組んでいくのかをしっかり考えていきたい。 |

(2) アンケートに見る「主体的に学習に取り組む態度」

パフォーマンス課題を取り入れたことでの変容に関する事後アンケートの「単元課題は自分事として授業に取り組めることができたか」の設問に肯定的な回答をした生徒が 94%となっている（図 15）。また、「自分が何かをすることで少しでも、より良い社会（嘉手納町）になると思うか」の設問に肯定的な回答をした生徒が 64%から 96%となっている（図 16）。さらに事前のアンケ

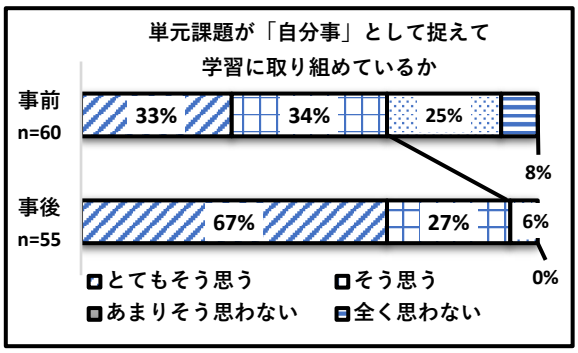


図 15　事前・事後アンケート

ートでは、「自分の力では変えられないと思うから」と否定的な記述が見られたが事後アンケートでは、「目玉プランを考えて自分ができることが見えてきたし、それを実行することで少しずつ社会がいい方向に変わっていくと思う。」など肯定的な記述が多くみられるようになっていた（表８）。地域社会を題材にパフォーマンス課題を単元を貫く問いとして設定したことで自分事となり、「主体的に社会に関わろうとする態度」を養うことができたこと考える。

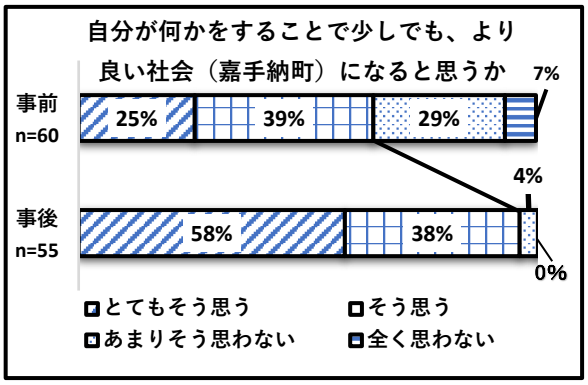



図 16　事前・事後アンケート

表８　「主体的に社会に関わろうとする態度」に対する記述の変容

| 生徒 | 学習前 | 学習後 |
|---|---|---|
| h | ・自分だけがやっても意味がないと思う | ・このプランが実現されることでもしかしたら嘉手納町に移住者が増えるかもしれないから |
| i | ・自分が何やっても変わらなそう | ・目玉プランを考えて自分ができることが見えてきたし、それを実行することで少しずつ社会がいい方向に変わっていくと思う。 |
| j | ・まだ嘉手納町のために何をしたらいいのかわからないから | ・授業の中で役場の人に意見を伝えることができて、町づくりに関われて嬉しかった。 |

また、授業後の事後アンケートで、改めて「将来、嘉手納町に住み続けたいですか」とたずねると 68%から 63%の微減であった。しかし、「目玉プランが実現したなら、嘉手納町に住み続けたいですか」の設問では、「はい」と肯定的な回答をした生徒は 83%もいた。このことは、自分たちで嘉手納町をよりよくするために目玉プランを考え、発表し町職員に伝えたことで、町に対する意識に良い変化があったと考える。また、「ふるさと納税」に関するアンケートを取ると、「今後、もし嘉手納町から離れて住んでも生まれ育った嘉手納町に貢献するふるさと納税を払ってもいいと思いますか」の設問に肯定的な回答をした生徒が 72%もいた。さらに設問の理由では、「嘉手納町が好きだから、自分のお金を嘉手納町に使ってほしいから」、「目玉プランのどれかが実現するためにお金を使ってほしい」と嘉手納町に「ふるさと納税」を通して、将来、関わり貢献したいということがうかがえる。

以上により、「R80」や思考ツールを組み込んだ振り返りシートに工夫することは、単元最後のパフォーマンス課題に取り組む際の材料として有効であった。特に、単元全体を通して「町役場職員として考える」というパフォーマンス課題を設定したことで、生徒はその学習課題を自分事として捉え、「主体的に社会に関わろうとする態度」を養うことができたと考える。今後の学習活動においても本単元を生かした単元づくりを行っていきたい。

## Ⅴ　成果と課題

### １　成果

(1)　「R80」や思考ツールを組み込んだ振り返りシートを工夫したことで、思考力、判断力、表現力等の高まりが見られた。

(2)　単元全体を通してパフォーマンス課題を設定したことで学習課題が自分事となり、「主体的に社会に関わろうとする態度」を養うことができた。

### ２　課題

(1)　歴史で学習したことも生かしながら、課題を追究、解決する手立てが弱かったので、今後は歴史的推移もふまえた単元構想が必要である。

(2)　課題を追究していく中で、多様な考えや立場から捉えさせるために、人的資源をより活用し、地域の現状把握や歴史的背景などを理解する必要がある。

## 〈参考文献〉

七里広志著　2022　『思考ツール×パフォーマンス課題でつくる中学校社会科授業』　明治図書版
川端裕介著　2022　『川端裕介の中学校社会科授業　見方・考え方を働かせる課題設定＆評価スキル』明治図書版
石井英真・鈴木秀幸編著　2021　『ヤマ場をおさえる　学習評価　中学校』　図書文化
澤井陽介・唐木清志編著　2021　『小中社会科の授業づくり』　東洋館出版
米田豊著　　2021　『「主体的に学習に取り組む態度」を育てる社会科授業づくりと評価
沖縄県教育委員会　2020　『令和３年度版「問い」が生まれる授業サポートガイド』
国立教育政策研究所教育課程研究センター　2020　『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校社会】』　東洋館出版
沖縄県立総合教育センター　2019『平成 31 年度調査報告書』沖縄県立総合教育センター
西岡加名恵・石井英真編著　2019　『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価「見方・考え方」をどう育てるか』　日本標準
中野英水著　2019　『パフォーマンス課題を位置づけた中学校社会の単元＆授業モデル』　明治図書
堀哲夫著　2019　『新訂　一枚ポートフォリオ評価　ＯＰＰＡ　一枚の用紙の可能性』　東洋館出版
文部科学省　2019　『中学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説社会編』
西岡加名恵編著　2016　『Q&A でよくわかる！「見方・考え方」を育てるパフォーマンス評価』　明治図書
西岡加名恵編著　2016　『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価　アクティブラーニングをどう実現させるか』　明治図書
西岡加名恵　2003　『教科と総合に活かす　ポートフォリオ評価法　新たな評価規準の創出に向けて』　図書文化

## 〈参考 Web サイト〉

沖縄県ホームページ
https://www.pref.okinawa.jp/index.html（最終閲覧 2022 年５月）